

の都市農業の果たす役割について質問しました。担当課は、食糧生産をはじめ、保水、防災農地、緑の保全など様々な役割を果たしていると答弁しました。



西田議員は、寝屋川の都市農業の果たす役割について質問しました。担当課は、食糧生産をはじめ、保水、防災農地、緑の保全など様々な役割を果たしてい

るといふと答弁しました。
二つの廃プラ処理施設により、周辺住民が、健康被害に苦しんでいることから、廃プラ処理については、サーマルリサイクルへの転換を求めました。

西田議員は、子どもいじめ対策について、機構改革によりこども部が設置されることとなり、子どもを守る課についてじめ対策の推進が行われることについて、職員配置や教育委員会との連携について質問しました。

担当課は、職員配置については、非常勤の臨床心理士を配置すること、教育委員会の行つているサポート会議への参加、教育委員会との情報交換を行つていくと答弁しました。

西田議員は、子どもいじめ対策について、機構改革によりこども部が設置されることとなり、子どもを守る課についてじめ対策の推進が行われることについて、職員配置や教育委員会との連携について質問しました。



西田議員は、子ども制度導入から3年目を迎える、あかつき・ひばり園の引継ぎについては、保護者の声をしつかりと聞き、保護者が安心できる引継ぎの体制

と声が上がっている保険料の、さらなる引き下げを求め賛成しました。

厚生常任委員会に付託された条例は3件。そのうちの1件は、「国民健康保険料条例の一部改正」です。

改正内容は、負担の公平性を図る観点から、賦課限度額（医療分）を52万円から54万円に引き上げるもので、中低所得層の保険料が引き下げるものです。

限度額の引き上げによって、高い所得の方が多く負担することで、中低所得層の保険料が引き下げるることについては、一定理解できま

住み続けたいまち寝屋川

子育て支援の拡充を

寝屋川民報



西田議員は、子どもの貧困が大きな社会問題となつていて、全国各地で広がっている「子ども食堂」について、寝屋川でも、実施に向けての動きがある中、研究、検討するよう求めました。



西田まさみ議員

厚生常任委員会 西田まさみ議員が質疑

市民の命と暮らし守る市政へ



発行
日本共産党
寝屋川市議員団
072-824-1181
(内線2399)
FAX: 824-7760
No.2779

石本えりな
太秦元町9-2-203
090-8937-1934

太田とおる
高柳2-49-2
080-3818-9722

中林かずえ
宝町4-33
090-3944-8385

西田まさみ
石津中町30-3
090-9713-3588

前川なお
萱島東2-16-11
090-1025-7503

法律相談
日時 4月21日(木)
時間 18時30分～
場所 市民会館
第3・4会議室
お問い合わせは
日本共産党議員団まで
電話 824-1181

小学校グランド 雨水貯留浸透施設の実施

28年度	点野・石津・西
29年度	堀溝・木屋・神田
30年度～	田井

バスICサービスの導入について

10回乗車で1回無料

京阪バス全車両
(タウンくるを含む)
ICOCA (イコカ) に導入する。

建設水道常任委員会に付託された条例は1件。「寝屋川市手数料条例の一部改正」です。これは、既存住宅について、増改築をし、その構造及び、設備を長期使用構造等とする場合に適当される、長期優良住宅の認定基準が設定されたことに伴い、認定申請に対する審査の手数料を定める予算審議では、「街を守る」施策として、



中林かずえ議員



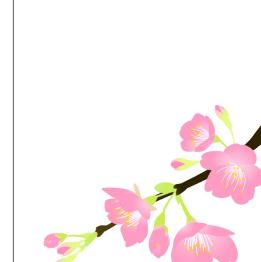
石本えりな議員

古川水路の浚渫、公共下水管の改築等、バスICポイントサービスの導入（左表）などについて評価しました。京阪連続立体交差事業、対馬江大利線の整備などをはじめ、小中学校グランドの雨水貯留施設の設置（左上表）、密集市街地整備事業、通学路の安全対策、空き家対策については、積極的な推進を求めました。

立地適正化計画については、今住んでいる人が住み続けられるよう、新たな大型開発は見直して、防災第一のまちづくり、本市の貴重な緑を守ること、市域全体のバランスのとれたまちづくり、高齢者や障害者に配慮したまちづくりを基本において作成することをもとめました。

東寝屋川駅周辺のまちづくりについては、地域の活性化をはかるために、地域の強い願いである、東寝屋川駅前線と沿道の区画整理事業を中心にして、住民の暮らしやすさや利便性を高める方向で整備を進めるべきです。また、住民懇談会や住民アンケートの実施など、地元や関係者の多様な意見を十分に聞いて慎重に検討することを求めました。

地域公共交通網形成計画の策定にかかる協議会については、各地域の意見などが十分に反映され、さらなる市民の足の確保について慎重に検討することを求めました。



今回講座に参加し、施設の見学などを行

3月21日に第10回のごみ減量マイスター養成講座の初級を受けに行き、今回は8名の方が参加されていました。ごみ減量マイスターには、初級、中級、上級があります。現在、初級は79名、中級は25名、上級は9名、合計113名です。ごみ減量マイスターは、ごみ減量やリサイクルに関する取り組みを家庭や地域の中で自主的に行うことです。

寝屋川市のごみの現状について、平成26年のごみ量の総量は約7万トン。1人1日当たり、ごみ排出量は約800グラム。キヤベツ1玉分

ごみ減量マイスター養成講座は、最初に講義があり、クリーンセンター施設見学をし、体験コーナー「ごみ分別クイズ」をし、2時間で終了しました。後日郵送きました。

寝屋川市のごみの現状について、平成26年のごみ量の総量は約7万トン。1人1日当たり、ごみ排出量は約800グラム。キヤベツ1玉分

とあります。ごみ減量マイスター養成講座の初級を受けに行き、今回は8名の方が参加されていました。ごみ減量マイスターには、初級、中級、上級があります。現在、初級は79名、中級は25名、上級は9名、合計113名です。ごみ減量マイスターは、ごみ減量やリサイクルに関する取り組みを家庭や地域の中で自主的に行うことです。

寝屋川市のごみの現状について、平成26年のごみ量の総量は約7万トン。1人1日当たり、ごみ排出量は約800グラム。キヤベツ1玉分



この15年間で、職員が大幅に削減されてきました。中林議員は、この間、技術の継承ができないという事も聞いている。今後も、安全で安心なまちづくりを進める「街を守る」施策を実現するために、必要な正規職員の配置を行うことを求めました。

計画的なまちづくり

必要な職員配置を

施設の見学などを行い、たくさんのごみを見て、ごみ減量の大切さを改めて感じました。これからもごみ減量のために、勉強したことを実践して、がんばっていきたいと思います。

まずは、3ヶ月後の中級を目指してがんばります。

防災第一のまちづくりへ大型開発は見直し

建設水道常任委員会 中林かずえ・石本えりな議員が質疑